

# おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—見えない線を見えるように—

NO. 5



もし、ひとりで電車に乗ったとしたら、どこの席に座りますか？空いていれば、ドアの近くの端の席ですか？それとも真ん中？そんなことぜんぜん気にしない人もいるでしょうね。微妙なのが、7人座れるところに6人くらいで座っている、あの座れるか座れないかの中途半端な空間。座ろうとして寄ってくれなかったら…、狭いかな…、それなら立っていたほうがいいか。隣りの人とイヤに近くなりそうだし…。これまた困るのが、座っている自分の隣りが、その隣りと中途半端に空いているとき。落ち着きませんね。ん？その前に、「電車なんか、最近乗っていないなあ〜」という声が聞こえてきそうです。

あんずの放課後デイでは、おやつ時間があって、座卓と座布団というジャパニーズスタイルでみんなで食べています。身体ももう大きくて、4～5人で囲むとテーブルがとても小さく見えます。みんなで準備をしながらバラバラと集まってくるのですが、もう慣れたもので、“隣りにお友達が来るんだよね”って上手にスペースを作ります。集まると、居酒屋風のなかなか微笑ましい光景なんですよ。一人ひとりのトレイにマグカップとお皿を乗せ、今日のおやつを乗せて席に戻ります。この、トレイと座布団が、ちょっとした配慮なんです。お隣りとの境界線が見えるので、どこまでが自分の場所でモノなのかが、わかりやすくなっています。おやつのお餅には自分の名前は書いてありませんね。でも手を出さないのは、その子との境界線が見えているからです。そして“あの子狭そうだな”“ちょっとズレようかな”といった気づかいも生み出します。和気あいあいの雰囲気を作れます。

宿題をやっていく子ども多いのですが、このテーブルも何人かで共用します。ここでは、ノート、鉛筆、筆箱はそれぞれのモノなので、ほとんど間違えません。でも“ちょっとスペースを取りすぎじゃない？”“〇〇くんの場所が狭くなってるよ”なんてこともあります。声をかけると「そうか、ごめんね」と、少しズレてくれます。テーブルには境界線は引いてありません。『見えない線』を意識してもらいます。

小さな子達の砂場遊びで、もめてしまう原因のひとつが、この『見えない線』争いです。「あたしのシャベルとった！」「ボクの山をこわした！」「え？ちがうよ…そんなつもりじゃない…」(ポカンと手が出てしまい…)なんて展開です。園のシャベルには自分の名前なんか書いていないし、“ボクの山”なんて表札も出していません。でも、『見えない線』が見えてくると、“今はあの子が使っている”“ボクはここまで。あっちは違う”と、場を分け合って過ごせるようになります。

お友達と関わるのが不得意な子の中に、この『見えない線』が見えていない場合があります。ランチョンマットやトレイ、粘土板を活用したり、お気に入りキャラクターグッズで自分の持ち物を揃えて目印にしたり。ちょっとしたオシャレな工夫が、お友達とスムーズに過ごすアクセントになることもあります。

もちろん、大皿を一緒に突っつく団らんも大切ですよ。みんな我が家のルールがあるでしょ。鍋ルールにすき焼きルール、ホットプレートルールからも『見えない線』を学んでいるんです。そんな季節になってきました。(H28. 10) K

